

「平和のための米国横断キャラバン」

—麻薬戦争終結をめざす米墨民間外交の可能性—

長谷川ニナ

はじめに

本稿はメキシコの平和活動団体「正義と尊厳を伴う平和のための運動」(Movimiento por la Paz con Justicia y Dignidad、以下 MPJD)が、2012年の夏、約1ヵ月にわたり米国で実施した「平和のための米国横断キャラバン」(以下「平和のキャラバン」)の活動報告である。同時に、「平和のキャラバン」が取り組む反「麻薬戦争」運動が、米国社会に根深い弱者排除に対する運動とつながっていること、その解決には民間外交の果たす役割が大きいことを示すものである。

「平和のキャラバン」はすでに国家崩壊の寸前まで深刻化しているといわれるメキシコの麻薬戦争に対して、メキシコ・米国両国の民間団体が共同で抗議の声を上げ、全米各都市をめぐりながら、米国民に隣国メキシコの現状を訴えたものである。

発起人のJ. シシリア(Javier Sicilia)は1956年生まれの雑誌記者で、詩人でもある。一男一女の父親であったが、2011年3月、彼の長男が麻薬組織とは無関係であったにもかかわらず、ささいなトラブルから麻薬組織の構成員によって友人6名とともにクエルナバカ(Cuernavaca)市郊外で虐殺されるという悲痛な体験をもつ。

F. カルデロン(Felipe Calderón)前大統領が推進した対麻薬組織戦争以来、メキシコ国内は麻薬組織と軍、警察、さらに麻薬組織間の抗争が激化しており、恐喝、強奪、誘拐、殺人などの暴力が蔓延している。シシリアの長男はそうした社会生活を侵食する暴力の犠牲者であった。シシリアは息子の死の直後、メキシコ全土の麻薬戦争による被害者家族へ呼びかけをおこない、蔓延する暴力に抗議して、クエルナバカ市からメキシコシティまでを無言で歩き通す「沈黙の行進」を組織した。「沈黙の行進」には全国から多数の人びとが参加し、最終目的地のメキシコシティの中央広場には、10万人が結集した。参加者はF. カルデロン大統領の麻薬戦争政策を批判し、無意味な暴力の応酬をただちに停止することを要求し、麻薬戦争の被害者家族たちが自らの肉声で悲惨な体験を訴えた。

この「沈黙の行進」はメキシコ全土に大きな反響をもたらし、シシリアは一躍、時の人となった。シシリアはさらにメキシコ全国を回る反暴力キャンペーンのキャラバンを組織した。キャラバンは6月と9月にメキシコ北部、南部の2つのコースでおこなわれ、それぞれ600人の参加者が十数台のバスに分乗して、メキシコ国内各地を巡った。

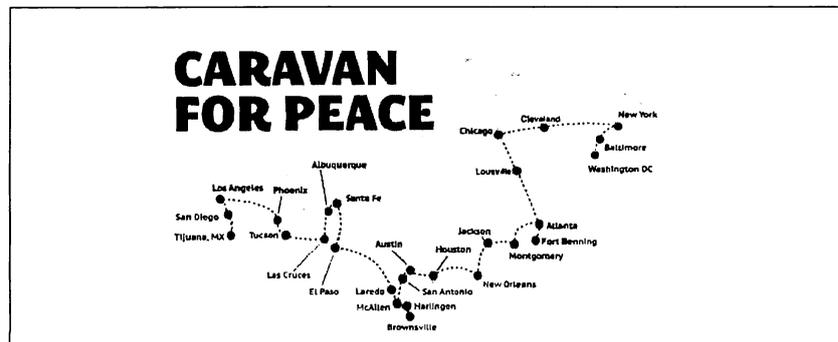
このキャラバン運動は各メディアを通じて大々的に報道された。

今回、全米をめぐる「平和のキャラバン」は、これに続くものである。激化する麻薬戦争の背景はメキシコだけでなく、長年続いてきた麻薬供給元のメキシコと、その消費地であり、なおかつ銃器の供給元となっている米国との関係に深く根ざしている。ゆえにメキシコ1国だけで解決できる問題ではなく、米国民の理解を深めるため、麻薬戦争の実態を訴えることを目的として組織された。

同キャラバンはシシリアの呼びかけに応じた米国の100以上のNGOの協力を得て、2012年8月11日から9月12日まで、全米各地の都市を巡回し、メキシコ国内の麻薬戦争の実態を被害者家族の口から直接、米国の市民に訴えた。筆者は「平和のキャラバン」とロサンゼルスからニューヨークまでの26日間、行動を共にした。以下では筆者の見聞と報道記事や事後参加者が発信した記事をもとに、32日間に渡る「平和のキャラバン」の活動を紹介し、参加NGO団体が取り組む、麻薬、人種差別、移民排斥など、現在、米墨両国の関係から生じている問題に触れる。グローバル化が進展する今日の世界で、各々の国内問題について国内政治の枠組みを越えた社会運動の民間外交がもたらす影響と、展望について考えてみたい。

「平和のキャラバン」のアジェンダと活動

図1 「平和のキャラバン」の巡回ルート



(出所) MPJD 作成

注：ティファナ以下最終訪問都市ワシントン DC までの計 26 都市。ただし、台風通過の悪天候によりニューオーリンズへの行程は中止となった。

「平和のキャラバン」参加者はおおよそ 100 名で、2 台のバスに分乗、8 月 11 日、メキシコ・ティファナ市を出発、同日国境を抜けて米国入りし、以後、西海岸のサンディエゴ市を皮切りに、9 月 12 日、最終目的地の首都ワシントンまで約 1 カ月をかけて米国を横断した（図 1 参照）。

1台のバスには主に MPJD メンバーである麻薬戦争の被害者家族が乗り、もう1台にはメキシコおよび米国の支援団体の人々が乗車した。これらの支援団体には人権 NGO やメディア関係者が含まれていた。

「平和のキャラバン」の経費の大半は米国側の NGO が負担し、食事や宿舎は数多くの個人や教会、市民グループが提供した。そのリストは長大なものになる。キャラバンを受け入れた人々は26都市のすべてにおいて手作りの食事を提供した。キャラバン参加者はほとんどの場所で、協賛する教会の屋内で寝袋を広げて眠り、ときには体を洗うこともできた。このような支援なしにはこの運動は果たされなかったことだろう。

被害者家族たちは大学や公共の建物、広場や公園などで彼らの恐怖と苦痛に満ちた体験を語り、多くの米国人ジャーナリストから取材を受けた。集まった米国市民はメキシコ人被害者家族の体験談に驚愕しながらも、現在のメキシコがきわめて重大な状況下であり、すみやかに何らかの有効な対策を実行しなければならない状態であることを理解したようであった。

「メキシコと米国の政府が麻薬カルテルを撲滅させるという名目のもとで国家を武装化させているかぎり、メキシコに平和は来ない」ということがシシリアと「平和のキャラバン」の主要なメッセージであったが、このメッセージは当の「平和のキャラバン」参加者の予想をはるかに超えて、米国の聴衆に理解された。その背景には、米国でも10年前から「ドラッグ合法化を訴える元警察関係者組織」(Law Enforcement Against Prohibition、以下 LEAP)をはじめ、多くの NGO の活動を通じて、ある程度、「麻薬戦争」問題の本質が理解されていたことが指摘できる。これらの団体の活動によって、「麻薬戦争」政策は財源の浪費だけでなく、愚かであるという認識が米国市民の間で広がっていたのである。

「平和のキャラバン」のアジェンダは平和を実現するために不可欠な項目として、以下の5つを提示している。

- (1) 「麻薬戦争」を助長する米国の諸政策の終結
- (2) 国境地帯における大量虐殺兵器密売の禁止
- (3) 資金洗浄に関与した銀行に対する厳格な法的制裁措置
- (4) 在留資格のない移民者に対する人道的政策措置
- (5) 麻薬戦争関連暴力終結のための米墨両政府の協力

「平和のキャラバン」を支えた米国市民

メキシコから国境を超えて全米をめぐる「平和のキャラバン」を組織運営するために投入された物的、資金的財源は膨大なものがあつた。「平和のキャラバン」の実現のために米国から100以上の団体¹⁾が協賛し、米国内だけで32万ドル近く(3000万円弱)²⁾の寄付

金を集めた。それ以外にも多額の経費がボランティアの活動や寄付によって賄われた。

さらに無償の宿泊が提供されたことも考慮しなくてはならない。前述のように、地元の教会はキャラバン参加者が寝袋を広げるために教会の床を開放し、しばしば食事もふるまった。また、英語とスペイン語の通訳ボランティアも大きな支えとなった。

2台のバスでメキシコを「出航」した、おおかたのメキシコ人参加者にとって、米国は未踏の地であり、異文化の地でもある広大な北米大陸を延々と「航海」し、その目的を達成できたのは、それを支えた多くの支援者あつてのことだった。「平和のキャラバン」の実現に多くの米国人が貢献したことは、二国間の民間外交の体現の意味がある。

「平和のキャラバン」が伝えたメキシコの過酷な状況—民間外交の可能性

カルデロン前大統領はその任期6年間に、米国政府の政治・経済的援助の下で麻薬戦争を遂行した。その結果、7万人の死者、2万7000人の行方不明者³、25万人の国内避難民を生み出すこととなった。それに加えて、警察と軍の腐敗、5倍増した拷問⁴、中米からの移民に対する非人道的な対応も引き起こした。これらに対する政府の公式発表データはないが、アムネスティ・インターナショナル⁵や他の人権団体NGOによって明らかにされている。

暴力の応酬は社会生活のあらゆる面において破壊と苦悩をもたらし、暴力の連鎖を生み出すばかりである。現在のメキシコでは仕事も教育も与えられない大量の貧困層が放置されており、その結果、生業を確保できない人々が生活の糧を得るために、やむなく麻薬ビジネスに組み込まれ、麻薬組織を肥大させている。武力行使が問題の本源的解決にならないことは明らかだ。しかし、政府はこの明らかに逆効果でしかない政策を変えようとしてこなかった。その間、S. アグアジョ(Sergio Aguayo)の言うように、米国は「メキシコが日々喪に暮れている虐殺」に無関心であったのである⁶。

こうしたメキシコの現状を、キャラバン参加者はある程度まで米国市民に伝えることができた。アメリカのNGO「Fellowship of Reconciliation」(以下FOR)の会長J・リンゼイ＝ポランド(John Linsay-Poland)は、「平和のキャラバン」に同行したメキシコ人新聞記者によるインタビューでこう語っている。

「米国の人々に訴えかけるためにも、キャラバンは重要でした。なぜなら実際、多くの米国人はメキシコの現状について何も知らないのです。少なくとも、これらの米国の政策のもとで、どれほどの人命が失われているのか知りもしないし、あるいは『メキシコ人は野蛮だから』といった人種差別的なことをなんとなく思っていたわけです。しかし、実際に話を聞くことで、犠牲者たちは麻薬売買とは何の関係もなく、麻薬マフィアのみならず、政府の犠牲者でもあることに気づくのです。」⁷

シリアはロサンゼルスの大観衆の前で、「おそらく、深い意図もないままに、両国

政府は、対麻薬カルテルとの武力戦争を、最も重要な当事者である国民を無視して行おうとした⁸と語った。停戦を求めると同時に、民衆の参加なしに問題解決はあり得ないという主張であった。

シシリアはさらに「政府が正しい方向を指し示す展望を失い、また、米墨両国関係のように、健全な政府間対話が失われた時、両国の市民社会が民間外交を繰り広げ、二国間の代替的アジェンダを創りあげるといふ、連帯の仕組みを作ることが必要となる⁹と、民間外交による現状打破の必要性を訴えた。

最終日、「平和のキャラバン」を総括して、シシリアは次のように語っている。「私たちはやるべきことをやりました。私たちは種を蒔きました。今、耳がある人は、耳を傾けるべきです」¹⁰

「平和のキャラバン」終了後の参加者の声

「平和のキャラバン」を援助したすべての団体はその後数カ月にわたって、多くの記事を書いた。そのさい特徴的だったのは、シシリアの語った「種」という言葉を皆が使ったことである。以下はその典型的な例である。

J. リンゼイ＝ポランド(FOR)：「平和のキャラバン」は、極めて重要な種を蒔いており、私たち米国人にその種の生育を見守る責任がある。」¹¹

E. ビジャセニョール(Elio Villaseñor)（「対話の文化振興のための市民イニシアティブ(Iniciativa Ciudadana para la Promoción de la Reconciliación)」）：「4週間、『平和のキャラバン』は、一般市民、キーパーソン、さまざまな社会・政治団体と交流し、米墨両国に関係する犯罪組織や麻薬組織撲滅のために引き起こされた暴力を告発した。主要都市でも小さな町でも、会合や追悼行事のほか、アートパフォーマンス、公開討論会、ラテン系やアフリカ系コミュニティとのイベントや、メディア・イベントを行った。『平和のキャラバン』を通じて米国民コミュニティとも、個人の尊厳や人権の擁護のために闘い、共通のアジェンダを創りあげる連帯意識が強化された。(中略)『平和のキャラバン』が米国議会の扉を叩き、政治家の心の扉を開く可能性を残した。(中略)『平和のキャラバン』は、両方の社会の間に対話の種を蒔いた。その種が芽吹き、花を咲かせるために、我々は多くの困難に立ち向かわなければならないであろう。」¹²

出発前、「平和のキャラバン」への一般のメキシコ人参加者には米国人に呼びかけることや、米国人権擁護NGOとの協働にイメージを抱くことができなかった。異文化圏での伝達の不安もあった。しかし、キャラバンを終えた後の彼らの成果に対する感想はきわめて肯定的なものであった。

「平和のキャラバン」が投影した米国内の非人道的問題

「平和のキャラバン」に参加した人たちが、「友情と責任の種を育て、花を咲かせる」と語ることは、たんなるロマンティシズムではない。実際、両国市民が日々直面する問題には根深い暴力の問題があり、米国にもそれを他人事として看過できない人たちがいるのである。麻薬戦争の問題は、米国国内のさまざまな深刻な社会問題と切り離せないのだ。以下では「平和のキャラバン」が米国内の差別問題に触れ、抗議行動と連帯した場面をいくつか紹介する。

1) アフリカ系アメリカ人に対する人種差別と司法制度

現在、米国では「大量投獄」と呼ばれる現象が問題となっている。オハイオ州立大学教授で米国の人種問題研究者 M・アレクザンダー(Michelle Alexander) (「平和のキャラバン」中、シシリアとラジオ対談を行った¹³⁾) は、『新たな黒人隔離：カラーブラインド時代の大量投獄』のなかで、今日、合衆国における囚人のうちアフリカ系米国人の割合は、南アフリカで最も人種差別が厳しかった時代を上回る比率に達していること、さらに刑務所の民営化により、市民を収監することが不道德的なビジネスとなり得ていることを指摘している¹⁴⁾。M. アレクザンダーらの研究者は、「麻薬戦争」は1971年に始まって以来、黒人社会を弱体化させることに巧妙に利用されてきたと主張する。

図2 全米黒人地位向上協会 (NAACP)メンバーに案内されキング牧師の棺を訪れる「平和のキャラバン」



アトランタ市・撮影：Jael de la Luz García/ Centro de Estudios Ecueménicos, México

米国において移民やラテン系の人権のために闘う「ラテンアメリカ・カリブ海コミュニティ民族同盟」(National Alliance of Latin American and Caribbean Communities、以下NALACC)¹⁵の事務局長O・チャコンによると、現在、米国には230万人の囚人がいるが、その最大のグループは黒人であり、次いでラテン系であるという。アフリカ系アメリカ人の投獄の理由の第一は麻薬関連犯罪容疑であり、ラテン系の場合は不法入国である。麻薬関連犯罪容疑に関して、黒人が白人に比べて圧倒的に多い理由について、チャコンは法律がそういう仕組みになっているからだという。

C. クリスティアンセン(Christian Christensen)は、「ハッカーや告発者に対する冷酷な戦争」という記事の中でこう述べている。「米国議会は、1986年に薬物乱用防止法を承認した。これは、米国史上もっとも厳格で露骨に人種差別的な法律の1つで、「クラック」と呼ばれる純度が低く安価なコカイン5グラムの所持で、最低懲役5年という驚くべき刑を科している。この法律が露骨に人種差別的と言われるのは、500グラムの精製されたコカインの所持によっても同様に5年の刑が科されるからである。すなわち、100:1の差がある。高価なコカインは中流階級以上の若者やエリートサラリーマンが購入し、はるかに安価なクラックは貧困層の中毒患者によって買われる。この臆面もない人種差別的な要素が明らかであったにも関わらず、2010年によく可決された公正量刑刑法においても、100:1が、18:1に緩和されたのみで、人種差別は温存するのだ。」¹⁶

人種差別的な法律が存在するという点において、98%もの犯罪不検挙率をもつメキシコ¹⁷に比べて、米国にどれほどの正義があるのかは、はなはだ疑問である。米国における人種差別的な法権力は麻薬の不法所持に対して行使されるわけで、それははからずも現在の「麻薬戦争」と深く関連していることが明らかである。

O. チャコン(Oscar Chacon)は、「誤った非人道的な政策によって苦しむ人々自身が団結し、自分の唯一かつ一次的な体験を語る事が絶対に必要だ」と語る¹⁸。NALACCは、政治的な抑圧を受けた当事者が唯一、自らの言動によって人々の考えを変えることができる存在であるという立場をとる点で、「平和のキャラバン」のメッセージに同意する。

チャコンは、麻薬撲滅政策による麻薬戦争や移民に対しての差別的な政策は、一朝一夕には変えることはできないが、あきらめず、粘り強く行動することが肝要と述べている。彼は、「平和のキャラバン」は、米国の従来 of 伝統的な社会運動が単独ではなしえない、「二国間での国境を越えた新しいアジェンダのパラダイム」を作り上げる機会であり、「同様の差別的な政策によって苦しめられてきた合衆国内の黒人コミュニティの経験も生かすことができる」と主張する。すなわち、「平和のキャラバン」は、米墨両国に共通する社会問題に対する取り組みであり、キャラバンのメッセージは一方通行ではないのだ。

2) ラテン系不法移民の尊厳と排他的、非人道的移民政策

「平和のキャラバン」には、NALACC のほかにも数多くの米国で生活するラテン系住民(ラティーノ)の尊厳の確立と彼らの生活水準の向上に取り組むアドボカシー団体を代表する人々が参加した。R. ロバト(Roberto Lovato) (「Presente.org」の共同創業者)、E. モロネス(Enrique Morones) (「Border Angels」¹⁹創業者) などである。

「Presente.org」は、差別的な移民政策の開始を契機に創設された。移民に対する差別的な政策に対する闘いに限らず、ラテン系コミュニティの人たちの適切な教育や医療サービスへのアクセスを求める運動や、理不尽な投獄からの救済活動も行っている。

「Border Angels」などと協力し、CNN のテレビ番組でラテン系移民に対する中傷発言を行った差別主義者の司会者を降板に追い込んだことはよく知られている。また、商業メディアによって作られた、移民を犯罪者視する悪意あるイメージを払拭する活動も行っている。彼らの代表的な啓発ビデオのシリーズに「Voice of Art : Migration is beautiful」がある。同シリーズでは、テキサス州とカリフォルニア州の国境に、メキシコからの越境者を阻止するための巨大な壁が建設されたため、メキシコからの移民はアリゾナ州の砂漠地帯を通過して米国領に来ることを余儀なくされ、その結果毎年 20 代と 30 代の越境者が 145 人も命を落としていることが語られている。

アクティビストのほかにも、多くのアーティストや聖職者たち、一般市民が移民の人権を護るために活動するのは、反移民法が非人道的で理不尽なものだからである。

「平和のキャラバン」参加者たちは、米国に着いた当初、ICE という言葉の意味を知らなかった。それは「米国移民・税関捜査局」(U.S. Immigration and Customs Enforcement) のことであった。「平和のキャラバン」が巡回した 26 都市に居住するラテン系の人々の証言では、現在、この ICE がまさに「移民狩り」のようなことをやっているという。

ICE は、アメリカ合衆国「国土安全保障省」(Department of Homeland Security: DHS) の一部門だが、米国では FBI に次ぐ大規模な犯罪捜査機関である。その使命は危険な外国人を追放することで市民の安全を守ることと規定されている。しかしながら、近年はその本来の業務とは裏腹に、グリーンカードを持っていないだけの、犯罪とは無縁の単なる弱者を年間 40 万人も逮捕し、国外追放しようとしている。しかも、この数字は人権擁護団体の推計では、政府に達成率を誇示するために ICE が独自に設定した数値なのだという。明らかに、米国内の治安問題が移民問題にすり替えられている²⁰。

3) 麻薬取締局の矛盾

「平和のキャラバン」の協力団体のひとつであった米国 NGO、LEAP の目的は、対麻薬戦争の不毛さと邪悪さを社会に知らしめることにある。メンバーは元警官、元判事、元検察官、元看守や、元「麻薬取締局」(Drug Enforcement Administration: DEA) や FBI

のエージェントで、対麻薬戦争の直接的関係者であった人々である。当初5人で始まった同団体は、現在会員7万人を擁する一大組織となった。彼らは皆、現役時に直面した麻薬撲滅政策における矛盾について証言する。

LEAPの創始者J・コール(Jack Cole)は、1964年にニュージャージー州の警察で働き始めたとき、麻薬担当者は7名で十分であったと語る²¹。しかし、ニクソン大統領時代に麻薬局が創設されるやいなや、麻薬問題担当者は76人になった。

LEAPは、米国政府に対して麻薬を合法化して政府の適正管理下に置き、麻薬マフィアや資金洗浄業者など、麻薬戦争ビジネスの闇市場をなくすことをめざしている。

LEAPはサンディエゴからワシントンまで「平和のキャラバン」と行動を共にした。LEAPが制作した「『平和のキャラバン』でのLEAP」と題するビデオ²²によれば、「平和のキャラバン」に参加した彼らの使命は「麻薬戦争がいかにも馬鹿げており、無益で、有害であるかという彼らのメッセージを伝えることで、被害者のメッセージの信憑性を裏付け、『平和のキャラバン』を支援すること」であった。

図3 J. Sicilia (左) と S. Downing 元ロサンゼルス市警察次長、現 LEAP メンバー (右)



撮影：Neil Franklin/ Law Enforcement Against Prohibition

麻薬問題の解決にむけて、真剣に議論しなければならないという論議が進みつつある。LEAPの他にもいくつかの米墨の団体が行動を共にした。これらの団体はマリファナの合法化を求めている。米国人にとってマリファナの合法化は「麻薬戦争」を終わらせるための第一歩である。一方で、「麻薬戦争」を終わらせることは、現在、病人としてではなく、犯罪者として扱われるがゆえに、治療を受けることができない何百万人もの麻薬中毒患者を治療するための必要条件である。マリファナ合法化は、米国人にとって多

くの人を監獄に送り込むことを防ぎ、民営刑務所商法に歯止めかけることにもつながる。

「平和のキャラバン」参加者は、米国のアクティビストたちが「対麻薬戦争」擁護論を論破していることに共感した。それはすでに7万人の死者と2万5千人の行方不明者を出しているメキシコにとっても、同じ議論が可能なことを提示し、キャラバン参加者を勇気づけた。

おわりに

2013年の3月現在、MPJDの誕生からすでに2年が経つが、メキシコの治安状況は依然として改善されていない。ペニャ=ニエト(Enrique Peña Nieto)現政権は、カルデロン前大統領の「麻薬戦争」路線を継承すると宣言しており、メキシコにおける暴力の状況は予断を許さない状況下にある。MPJDのメンバーやメキシコ国内の人権擁護NGOが恐れていることは、世界の人々が日々犠牲者を生み出しているこの状況に慣れてしまうことである。

グローバル化する世界では、一国内の抱える問題は、関係諸国の抱える問題と複雑にからみあっており、一国の範囲内での解決は難しい。たとえば、米国からメキシコへの武器の流入を止めるには、米国内での厳しい銃規制が必要だが、それをメキシコ側から行うことは不可能である。メキシコから米国への在留資格のない移民の流入を止めるには、メキシコ及び中米の公平な社会的分配が必要だが、米国政府はこれに取り組むことはできない。そして、国家を代表する政治家は、それぞれの選挙区事情すなわち個別団体、地域の利害関係に束縛され、大局的な見地に立ち総合的なアプローチをとることができない。それを解決するには従来の国民国家の枠組みを越えた新しいアプローチが必要なのである。

少なくとも麻薬戦争の問題は、メキシコにおける麻薬組織の武装化やそのビジネスを抑止すればすむという簡単な問題ではない。メキシコと米国がそれぞれ抱えている、貧困、人種差別、銃器、在留資格のない移民などの問題の温床となっている、メキシコと米国間の二国間関係を総合的に考えなおすところから始まらなければならぬ。両国間にその合意を形成するには、長い道のりになるだろうが、それにはまず、国民国家間の枠を越えた、広範な民間レベルでの認識の共有、合意形成が必要である。

その意味で、今回の「平和のキャラバン」のように、メキシコ側NGOが米国側のNGOに働きかけ、相互に具体的な問題点を提出しあい、それを両国民が共同で考え、合意を形成していくという活動のあり方は、これからの新しい世界を構築していくための1つのヒントとなり得よう。すなわち、国民国家の枠組みを越えた民間レベルでの外交が重要な意味を持つようになってくるということだ。米国横断の「平和のキャラバン」は、ささやかながらそうした民間外交の第一歩であったといえるのではなからうか。

- ¹ 詳細は「平和のためのキャラバン同盟」(Alliances Caravan For Peace)のウェブサイト参照。<http://www.caravanforpeace.org/caravan/?page_id=1033>[最終閲覧日 2013年3月11日]。
- ² Teresa Carmona, “Una cancanense en la Caravana por la Paz”, *El Periódico de Q. Roo*, 2012年10月7日, <<http://www.el-periodico.com.mx/noticias/una-cancunense-en-la-caravana-por-la-paz/>> [最終閲覧日 2013年2月16日]。
- ³ “Confirma Segob 27 mil desaparecidos en el país”, *Tijuana Hoy*, 2013年2月20日, <<http://www.tijuanaohoy.com.mx/2013/02/20/confirma-segob-27-mil-desaparecidos-en-el-pais/>>[最終閲覧日 2013年2月20日]。
“Mexico: Crisis of Enforced Disappearances”, Human Right Watch, 2013年2月20日, <<http://www.hrw.org/news/2013/02/20/mexico-crisis-enforced-disappearances>>[最終閲覧日 2013年2月20日]。
- ⁴ “Casos de tortura aumentan en 500% durante el sexenio de Felipe Calderón”, *Univisión Noticias* 2012年10月30日, <<http://noticias.univision.com/mexico/noticias/articulo/2012-10-29/casos-de-tortura-se-disparan-mexico-calderon#axzz2AtY41Tij>>, [最終閲覧日 2013年2月20日]; “Creció mil por ciento la tortura durante el gobierno de Calderon: ONG”, *La Jornada*, 2012年10月7日, <<http://www.jornada.unam.mx/2012/10/07/politica/012n1pol>> [最終閲覧日 2013年3月10日]。
- ⁵ “End abuse of migrants in Mexico”, *Amnesty International*, 日付不明, <<http://www.amnesty.org/en/refugees-and-migrants/end-abuse-of-migrants-in-mexico>>[最終閲覧日 2013年2月20日]。
- ⁶ “Manda carta Sicilia y Aguayo a Obama para detener venta de armas”, *El Informador de Baja California*, 2013年1月17日, <<http://www.elinformadordebc.info/mundo/83-noticias-b/17938-manda-carta-sicilia-y-aguayo-a-obama-para-detener-venta-de-armas>> [最終閲覧日 2013年2月26日]。
- ⁷ “Caravana por la Paz. Un paso a favor de la paz y la justicia”, *RompevientoTV*, <<http://www.youtube.com/watch?v=yS6NFnS1-P8>>[最終閲覧日 2013年2月15日]。
- ⁸ Javier Sicilia, “Javier Sicilia en el City Hall, LA”, *Caravan for Peace 2012*, 2012年8月14日, <<http://movimientoporlapaz.mx/es/2012/08/14/javier-sicilia-en-el-city-hall-la/>>, [最終閲覧日 2013年2月26日]。
- ⁹ Javier Sicilia en el City Hall, LA”, *Movimiento por la Paz con Justicia y Dignidad*, 2012年8月14日, <<http://movimientoporlapaz.mx/es/2012/08/14/javier-sicilia-en-el-city-hall-la/>>, [最終閲覧日 2013年2月26日]。
- ¹⁰ “Dice Sicilia adiós a EU con un mensaje de esperanza y optimismo”, *El Periódico de México*, 2012年9月13日, <<http://www.elperiodicodemexico.com/nota.php?id=618138>>, [最終閲覧日 2013年2月26日]。
- ¹¹ “Cápsula 10. Caravana por la Paz. Un paso a favor de la paz y la justicia”, *RompevientoTV*, 2012年9月7日, <<http://www.youtube.com/watch?v=yS6NFnS1-P8>>, [最終閲覧日 2013年2月16日]。
- ¹² Elio Villaseñor “Caravana sembró semillas hacia el futuro”, *Brujula Ciudadana* 39, 2012年10月, <<http://www.iniciativaciudadana.org.mx/brujula-ciudadana/1034-brujula-ciudadana-39.html>>, [最終閲覧日 2013年2月15日]。
- ¹³ “Children of the same sorrow: The U.S./Mexico Caravan for Peace Takes on the Drug War”, *PRX. Series Bringing Down the New Jim Crow*, <<http://www.prx.org/pieces/85174>>, [最終閲覧日 2013年3月23日]。
- ¹⁴ “On Eve of MLK Day, Michelle Alexander & Randall Robinson on the Mass Incarceration of Black America”, *Democracy Now !*, 2012年1月13日, <http://www.democracynow.org/2012/1/13/on_eve_of_mlk_day_michelle> [最終閲覧日 2013年2月26日] / 刑務所の民営化によるビジネスについては、以下の2点の記事を参照。
“En juego negocio de centros de detención de migrantes con eventual reforma migratoria en EEUU”, *EFE*, 2013年2月15日, <<http://www.departamento19.hn/index.php/portada/69-actualidad/10404-charlottetegucigalpa-la-luchatermino-despues-de-varios-meses-de-realizar-constantes-acciones-encaminadas-a-la-obtencion-de-licencias-de-conducir-los-miles-de-jovenes-indocumentados-en-carolina-del-norte-llamados-qdreamers-q-podran-gozar-de-una-vez-p.html>>[最終閲覧日 2013年2月26日]。
Vicky Pelaez, “The Prison Industry in the United States: Big Business or a New Form of Slavery?”, *Global Research*, 2013年1月31日, <<http://www.globalresearch.ca/the-prison-industry-in-the-united-states-big-business-or-a-new-form-of-slavery/8289>>, [最終閲覧日 2013年2月26日]。
- ¹⁵ Oscar Chacon “Develando el costo humano de la ‘Guerra contra las drogas’ y construyendo agendas comunes a través de fronteras”, *Brujula Ciudadana* 39, 2012年10月, <<http://www.iniciativaciudadana.org.mx/brujula-ciudadana/1034-brujula-ciudadana-39.html>>, [最終閲覧日 2013年2月15日]。
- ¹⁶ Christian Christensen, “Guerra despiadada contra hackers y denunciantes”, *Rebelión*, 2013年2月17日, <<http://www.rebelion.org/noticia.php?id=163934>>, [最終閲覧日 2013年2月16日]。
- ¹⁷ 「2006年12月1日から2012年6月14日の間に、メキシコ国内では、9万2048例の殺人が記録されたが、その同期間に殺人罪で有罪判決を受けたのは679名、すなわち、わずか0.73%に過ぎない。わかりやすく言えば、あなたが過去6年間に殺人を犯していたとしても、有罪判決を受けて刑務所に入る確率は、1%に満たないのである。起訴率すら7%である。この数字だけで、メキシコの治安と法執行機関の状況が明らかである。」 Carlos Puig “92 mil asesinados, solo 679 homicidas; la catástrofe de la justicia” 2012年10月9日, <<http://www.milenio.com/cdb/doc/impreso/9161069>>, [最終閲覧日 2013年2月26日]。
- ¹⁸ Oscar Chacon “Develando el costo humano de la ‘Guerra contra las drogas’ y construyendo agendas comunes a través de fronteras”, *Brujula Ciudadana* 39, 2012年10月, <<http://www.iniciativaciudadana.org.mx/brujula-ciudadana/1034-brujula-ciudadana-39.html>>, [最終閲覧日 2013年2月15日]。

- ¹⁹ Border Angels (Angeles de la Frontera) <<http://www.borderangels.org/>>, <http://www.youtube.com/watch?v=bGc9KyavKJ8>.
- ²⁰ 「米国移民・税関捜査局」については以下の記事を参照。1紙は“USA TODAY Afirma: ‘ICE cumple cuota de deportaciones’” *La Vision Newspaper Atlanta*, 2013年2月21日, <<http://www.lavisionnewspaper.com/site/index.php/noticias-locales/item/1898-usa-today-afirma-%E2%80%9Cice-cumple-cuota-de-deportaciones%E2%80%9D>>, [最終閲覧日 2013年3月7日], もう1紙は“Immigration Tactics Aimed at Boosting Deportations”, *USAToday* 2013年2月17日, <<http://www.usatoday.com/story/news/nation/2013/02/14/immigration-criminal-deportation-targets/1919737/>>, [最終閲覧日 2013年3月7日]
- ²¹ Law Enforcement against Prohibition, *LEAP*, s/f, <<http://www.youtube.com/watch?v=LayaGk0TMDc>> [最終閲覧日 2013年3月7日]。
- ²² “LEAP on the Caravan for Peace”, *LEAP*, 2012年11月5日, <<http://www.youtube.com/watch?v=fUi54njVvAE>>, [最終閲覧日 2013年3月7日]。

(上智大学外国語学部教授 / ninalluhi@gmail.com)